

**みやぎNPO夢ファンド(C) スタートアップ支援プログラム
平成22年度助成事業 最終報告書**

書式4

23年4月20日

団体名 地域生活支援オレンジねっと

事業名 「ときめきカフェ&サロン」でみんなでお食事会事業

助成金を使って行った事業について、ご記入ください。

(事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)

- ① 4月20日 食育NPOおむすび 打合せ
- ② 5月18日 食育NPOおむすび 打合せ
- ③ 6月22日 食育NPOおむすび みんなで食べよう水無月ランチ(24名)
- ④ 7月3日 いわなが薬局 打合せ
- ⑤ 7月21日 いわなが薬局 漢方「夏をのりきる薬膳料理」(25名)
- ⑥ 8月4日 食育NPOおむすび 打合せ
- ⑦ 9月14日 食育NPOおむすび みんなで食べよう長月ランチ(28名)
- ⑧ 10月12日 食を支え合う地域づくり講座
「食の地域活動紹介DVD上映」食を支え合うボランティア活動
松崎パン教室主宰 (14名)
- ⑨ 11月13日 山形真室川町産直まごころ工房 真室川郷土料理(36名)
- ⑩ 11月16日 食育NPOおむすび みんなで食べよう霜月ランチ(23名)
- ⑪ 12月7日 加美町菅原商会 米粉ときめき簡単クッキング(26名)
- ⑫ 12月11日 食を支え合う地域づくり座談会フードクリエイター及川幸子(13名)
- ⑬ 1月26日 菜々草 郷土料盛り込んだお弁当(25名)
- ⑭ 2月12日 松崎パン教室主宰 ワンプレートランチ(28名)
- ⑮ 3月16日 一品持ち寄りお楽しみランチ(震災のため中止)

助成金を使って行った事業について、ご記入ください。(続き)

今回の事業によって、団体の活動や地域社会にどのような成果・効果がありましたか。

- ①この事業に一人暮らしの50代～60代の女性の参加がとても多かった。食を通じて、地域とのつながりや仲間を求めていることがわかり、これからの地域づくりに大いに力を貸して頂けそうです。
- ②幼稚園～高齢者の方が集まり、一緒に調理や食事をしたことで、幅広い世代交流ができた「若い人と一緒に食事作りができて楽しかった」「子ども達が頑張ってくれて嬉しかった」「おばあちゃんに色んな事を教えてもらった」と事業は大変好評だった。
- ③事業に参加した幼稚園児や小学生の若いお母さん方がカフェ＆サロンを使っの食と手作りの交流イベントを開催してくれたことで、新たな世代との交流につながり、今後継続事業として大いに期待したいと思う。
- ③滋養を通じて、栄養バランス、手作り、郷土料理、安心安全な食を重視した地域の絆、暮らし・ふるさとや家族との思い出・健康・心のぬくもりなど我々の気持ちを伝える事ができ、カフェの常連が増えました。
- ④世代が異なる老人会やボランティア団体のメンバー同士が交流する機会が増えたことで、団体同士のパイプが太くなり、他の活動でも交流しやすくなった。
- ⑤地域の商店から食材を購入することで、親睦が深まり、食材の提供や寄付、活動応援を頂くようになった。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか。
また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか。

- ①高齢者の食を中心に支える目的だったが、来客は40代～70代全般の方がほとんどで高齢者の来客が思ったより少なかった。高齢者が昼食だけのためにわざわざ外出してこない事がわかった。高齢者の孤立を防ぐためには、待つだけではなく、こちらから積極的に声をかけたり、自宅に迎えに行ったり、老人会に声をかけて一緒に食のサロンを提案したりと動かなければならないと思った。
- ②料理教室に参加した方は、ほとんどの方がカフェボランティアとして活動してくれたが、長期的に関わる人が少なかった。結局責任をもつ数人が残り、今後持続させて関わる人を増やしてゆくために、ボランティアに参加しやすい体制を聴きとりしたい。
- ③住民に情報を提供することが、難しい。プリントだけでは読んでくれなければ届かない。人と人がつながって情報もつながる。結び付きを大切にするために、食をきっかけに団体同士が定期的に参加し、楽しめるイベントの企画をしたい。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか。
また、その際に必要なものは何ですか。

- ①23年度は食の提供だけにとどまらず、予防介護事業と高齢者の孤立を防ぐために、地域包括支援センターと連携して、体操やレクリエーションや歌などと組み合わせた食事の提供や自宅への配食も行ってゆきたい。
- ②この事業の報告として参加した皆さんの笑顔の写真をカフェ＆サロンに展示し、震災で心が沈んでいる地域を少しでも元気にしたい。参加者してくれたのべ250名の皆さんとのつながりを大切にしてサロン広報を継続してゆきたい。
- ③小学校が推進している食育教育と連携して幼稚園＆小学校のお母さんが主催する食と手作りの交流イベントを応援してゆきたい。特に食を通じて親子で楽しめる食育講座を展開
- ④高齢者が自ら出来る事と、我々世代ができる事を協働して行うことが大切だと思った。食事作りは私たちが行って行き、老人会などニーズに直結している地域の高齢者に声掛けしてもらい、サロン運営に参加協力してもらおう居場所づくりをしてゆきたい。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	200,000	200,000	
参加費	45,000	43,000	200円×215人
自己資金	6,200	7,763	
合計	251,200	250,763	

支出の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
講師謝礼金・交通費	133,000	131,000	
コピー用紙	61,200	64,112	
調理消耗備品	5,000	15,603	資料代・名札・パネル
印刷・コピー代	52,000	32,548	
通信費	0	7,500	はがき代
合計	251,200	250,763	

寄付をいただいた方へのメッセージをどうぞ

この度は、地域の食を支え、地域をつなぐ活動にご支援いただきありがとうございました。地域の多くの方々をつながり大きな喜び・励まし・活力を頂き事業を展開することができました。地域が主体となり自分たちの生き方を豊かにして行く、自分だけではなく共に生きる様々な人を思いやり、一人ひとりに寄り添った活動をこれからも展開してゆきたいと思っております。震災のため、地域の公的な施設が使えなくなりました。私たちの居場所を多くの方に提供し、交流を更に広め、深めてゆきたいと思っております。